

B - Philosophy Webinar

B-Philosophy 全8回を一斉再配信！

小宮山先生のインプラント療法とは

2023

8.1_[火] ~ 10.31_[火]

オンデマンドセミナー

※本配信内容は2021～2022年で開催されたセミナーと同じ内容になります。

定員 100名 受講費用 70,000円 (税別)

ブローネマルク
オッセオインテグレーション
センター
院長 小宮山彌太郎先生



対象 インプラントに興味をお持ちの歯科医師
およびコ・デンタルスタッフ

臨床応用開始から半世紀以上が経過したインプラント療法は、近代歯科領域において不可欠なものとして捉えられています。従来にも存在したインプラントと異なり、歯科界に大きな変革をもたらした背景を考える上で、Brånemark らの業績は偉大であり、歴史から学ぶことがたくさんあります。また、インプラント療法における診査・診断・治療計画、基礎・アフターケアなど様々なことを学び・実践しなければなりません。

本セミナーは、歯科医療従事者のみなさまに向けて、先生の経験談やインプラントの歴史、日常臨床での小ヒント、インプラント療法の特殊性と長期にわたる有効性の獲得など、より実践的なことをお伝え致します。

本セミナーのポイント

インプラント治療の権威であらせられる小宮山彌太郎先生が大学ご卒業されて半世紀、
医師として 臨床経験を通じ、経験してきた**一番大事な事、伝えたい事**

“患者との接し方” や “患者から評価・感謝される医師” などの倫理感・基礎を説いて頂きます。

全8回講演を一斉再配信します。是非この機会をお見逃しなく！

お申込み

ヨシダのホームページよりお申込みください。

スマホからはQRで簡単アクセス▶

ヨシダ



<https://www.yoshida-dental.co.jp>



お申込みから受講までの流れ



ヨシダホームページより
お申込み

※G-PLUSへの会員登録が必要です。



ご登録のアドレスへ
申込み完了メールが
届きます



開催日時になったら
PCや携帯からセミナー
視聴ページへアクセス

※受講の際はスピーカーではなく、ヘッドセットやイヤホンのご使用をお勧めします。※通信不具合によりご参加・ご視聴いただけない場合の保証はできかねますので、予めご了承ください。

セミナーに関するお問い合わせ先

g-plus@yoshida-dental.co.jp

※メールでの受付・回答のみとさせていただきます。

※お問合せは順次対応させていただきますが、状況により回答までお時間をいただく場合がございます。予めご了承ください。

ご提供いただいた個人情報につきましては、弊社事業に関する情報、製品に関する情報の提供等、弊社インターネットホームページに掲載した個人情報保護方針「利用目的」の範囲内で利用させていただきます。

0 半世紀の臨床経験から学んだ患者とのかかわり

～どのようにして良好なコミュニケーションを永きにわたり維持するか～

われわれ医療従事者が対象としているものは、感情を備えた生体組織であり、この点は領域を問わず医療現場では常に心に止めるべきです。患者とわれわれのどちらかが偉いわけでもなく、同じ土俵上で対等な立場でお互いに尊敬しあえる状況を作ることが大切で、そのためには日常臨床での些細な心遣いが患者からの信頼をかち得る第一歩になります。それにより、歯科医療従事者としての道を選ばれた喜びを感じていただけるでしょう。講座名にある「B」の由来にも触れながら詳しく解説していきます。

1 歴史から学ぶ 近代インプラント

臨床応用開始から半世紀以上が経過したインプラント療法は、近代歯科領域において不可欠なものとして捉えられています。従来にも存在したインプラントと異なり、歯科界に大きな変革をもたらした背景を考える上で、Brånemark らの業績は大いに参考になります。商売上の好材料と捉える多くの企業が、市場に参入していますが、収益と目の利便性を重視するあまり、患者の利益に関して疑問を持たざるを得ない製品も存在します。歯科医師も科学者の一員としての自負を持つならば、歴史を通して厳しい目を持ちたいものです。特定のインプラントの販売に加担するものではありません。

2 インプラント療法における診査・診断

インプラントは適切に応用されるならば、長期間にわたり患者の QOL の向上に寄与できるものであることを確信してきました。しかしながら、それはすべての患者にとり最適なものではなく、従前の修復法で患者の要求を満たせる場合も多くあります。インプラント療法ありきの不適切な医療誘導は、歯科に対しての不信感を増悪させかねません。正しい診査、診断が好ましい治療結果の第一歩となり、患者の歯科医療従事者への信頼と感謝に大きく影響します。治療計画の立案には、どのような点を注意すべきかについても触れます。

3 インプラント療法における治療計画の立案

患者の主訴を尊重しながら、その利便性の低下を最小限にすることを修復に際して忘れてはなりません。人造物破壊の主因は力ですが、長期間の QOL の維持に貢献できるとされるインプラント療法にあっても、それを考慮した設計が求められます。多種多様な歯牙欠如状態への対処には、多くの観点から考えるべきでしょう。以前と異なり、局所的な修復が多い今日では、適用本数が限られる状況下での力学的な考察は不可欠で、かつ経年的な変化への対処を見据えた計画が求められます。支台に問題がなければ、各種条件の変化に対応しやすい点がインプラントの強みです。

4 インプラント療法の基礎（外科編）

診査に基づく治療計画の立案ののち、実際の施術の第一歩は外科的な処置ですが、ここで問題を起こした場合には、その後の長期間にわたる好成績を望むことは難しいでしょう。この処置で肝心なことは、条件次第では異物と認知される危険性のある材料を生体組織内に設置する点で、従前の多くの歯科臨床とは大きく異なります。すなわち、裸の生体組織はわれわれが抱えているよりも繊細で、それをいかに手懐けるかにより、治療結果に大きな差がつかます。この処置過程で重視すべきこととして、衛生環境を整えて感染を起させないこと、組織への侵襲を最小限に抑えることの2点があります。少しでも不利な状況を避けるためのヒントをお話します。

5 インプラント療法の基礎（補綴編）

インプラント療法にあっては、外科処置を重視する歯科医師が多いようですが、埋入がいかに適切に行われたとしても、上部構造次第で長期間にわたる患者の要望の実現は難しくなるでしょう。天然歯でも力はその予知性に大きく関わりますが、まして歯根膜に相当する組織を持たないインプラントにあっては、隣接する周囲骨に悪影響を及ぼしやすくなります。インプラントを支台とした上部構造の精度の確認と強度の獲得はもちろんのこと、咬合接触状態の管理はすべて歯科医師に委ねられています。この製作法であれば精度が高いといった、先入観は禁物です。また、長期使用の過程では不可避な変化への対応のしやすさについても触れるつもりです。

6 インプラント療法のメンテナンス（アフターケア）

樹木など自然界にあっても適切な状態を保持するためには、メンテナンスは必要で、ましてや生体組織に適用された人造物ではアフターケアは不可欠でしょう。30年ほど前までは、『寝たきりになっても、週に2ないし3回ほど介護の方に拭っていただければ十分でしょう。』などと悠長なというか無責任な言葉を発していましたが、インプラント表面性状、アバットメント、上部構造のデザインなどが当時とはまったく異なる今日のものでは、そのようなことは言えません。毎日の患者自身の清掃と定期的なプロフェッショナル・クリーニングは不可欠です。さらに、問題が起こった場合の早期発見は、種々の面での患者の負担を最小限とすることができます。

7 インプラント治療における問題点とその対応

いかなる治療にあっても、程度に差があるものの、何らかのトラブルに遭遇するものです。それを経験したことがない歯科医師は、さほど多くはないでしょう。歯科をはじめ医学においては、問題点からその原因を探り、そしてその対処法を学ぶことで、進化と発展を遂げてきました。大切なことは、それ以後の患者に同じようなトラブルを繰り返さないということです。インプラントに関わる問題点には、ハードウェアとしての構造をはじめとするシステムに関わるものと、生体組織に関連したものとに大別できます。いずれにあっても、歯科医療従事者側のソフトウェアが大きく影響します。症例を通して、皆様の臨床に役立つように考察するつもりです。